琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　沖縄関係　毒ガス問題　第2次移送(3)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43784

在席　昭和46年5月15日　朝日

本件後退答弁について本社では
非常な関心を寄せているので、速やか
その点をも含め訂正したい趣、御通知乞う。
朝日社代　内線256
5/15 11:30 和田

米軍基地調べる

沖縄核ぬきで首相答弁

佐藤首相は衆院予算委員会で、沖縄返還について佐藤首相の真意をただした。これに対し佐藤首相は「引継ぐことのみを考えている」と答えた。

5.15 米大マイヤーズ公使へ 次のとおり連絡

1. 議事録しらべないとはっきりわからない
2. 「今米軍基地の実態をしらべているので、それを含めて調査したい」といったか「confirm」とはいわず。その方法を明確にしなかった。

（アラ）

（五月十四日 参、内 議事録より抜粋）

大出（社会党）
前言を取り消したとおっしゃらぬというならば、
返還交渉の過程で調査をする、こうおっしゃっている
わけですから、それはよろしゅうございますか。

佐藤総理
返還交渉の場合には、もちろん現地において
すべてのものを引き継ぐという そういう引き継ぎ

は必ず詳細にやりますから、それにまかして
いただきたい、かように思っております。

大出　俊

日本側が引き継ぐ場所に核があるとは思えない。…つまり、核があるかないかという焦点は、返還された米軍の基地はそのまま残る。そこに問題がある。……

だから、これは返還交渉の過程で沖縄が日本に返るんだから調査をする、そういうものは

好ましくない。……

つまり、返還にあたって米軍基地の中に核があるかないかということを調査をして、あればどけろとおっしゃるというのが筋だ。そうでなきゃ前言をお取り消しになったことになる。

いかがですか。

佐藤総理

前言を取り消すつもりはございません。そうしてきた、いまの引き継ぎというのは自分たちが現実に引き継ぐ範囲、またいまあるアメリカの基地の態様そのものを十分調べるという、それで初めて引き継ぎできるわけですから、そういうことを含んでのこと、かようにご承を願います。

米軍が沖縄から毒ガス兵器を撤去する旨発表しているが、
その撤去作業は完了したかの
答 米政府は、本年四月二十二日国防長官
のステートメントにて明らかにしたように、沖縄から
有毒ガスの化学兵器を撤去することを意味し、
そのために米本土まりグアムへ撤去の専門家の一団を派
遣したと言っているので、撤去することは間違い
ない。

外務省

ないと考えている。
なお撤去作業が完了したかについては、
報告書ぐのところ米側から公表されていないので不明
である。

昭和46年5月15日　東京

大量の化学兵器用塩素ガス
相模原の米軍保有
公明追及

公明党の伊藤惣助丸氏は、十四日午後の衆院内閣委員会で、在日米軍が化学兵器の材料である塩素ガスを大量に保有している事実を明らかにした。これにたいし中曽根防衛庁長官は「米軍に照会した結果、殺菌、消毒用に使用されるものである」と述べ、化学兵器の材料説を否定した。しかし、同氏は塩素ガス貯蔵地がベトナムへの物資補給所である点から中曽根答弁を納得せず、審議は再三中断、結局、愛知外相と中曽根長官が「国民的関心事でもあり、誠意をもって調査、報告する」と答弁し、〝毒ガス〟論議を収拾した。

伊藤氏の説明によると、問題の塩素ガスは神奈川県相模原市の米陸軍相模総合補給しょう内にボンベに詰めて大量に保管している。ボンベには塩素ガスがはいっていることが明記され、付近に「塩素ガス、許可なき者立ち入り禁止」との立て看板も立っている。

塩素ガスは、ジュネーブ議定書で禁止されている化学・生物兵器に例示されている窒息剤の一つ。昨年五月六日の衆院外務委で愛知外相が「議定書の対象として使用禁止されている塩素ガス、マスタードガスなどの化学・生物兵器を在日米軍は保有していない」と答弁しており、伊藤氏は補給しょう内に野積みされている塩素ボンベの写真を示して政府に迫った。

中曽根長官は「米軍に照会した結果、殺菌、消毒用に使うとのことで、いわゆる化学・生物兵器ではない」と突っぱねたため、伊藤氏は①同補給しょうがベトナムへの最大の物資補給所である②の黙認すれば沖縄の毒ガス撤去が遅れる恐れも出てくる③事故が起これば大きな被害を出す――などの点をあげ、外相らに善処を要請した。

これに対し愛知外相は化学・生物兵器がわが国に持ち込まれているとは思わない――としながらも「国民の関心事であり、政府としても慎重に対処せざるを得ない」と述べ、また中曽根長官も「管理が適正に行なわれているか、誠意をもって調査したい」と答えた。

昭和46年5月15日　朝日

外務・防衛庁が合同調査
米、相模補給しょうの塩素ガス

愛知外相と中曽根防衛庁長官は、十四日の衆院内閣委員会で「神奈川県の米軍相模総合補給しょうにある塩素ガスの管理状況、危険性の有無などについて、早急に外務省・防衛庁の合同現地調査をしたい」と述べた。

この日の委員会で伊藤惣助丸氏（公明）は、米軍相模補給しょうに山積された「塩素入りボンベの写真」を示しながら「愛知外相は昨年五月の衆院外務委員会で、ジュネーブ議定書が禁止している毒ガスの国内持込みは許さないと答弁した。しかし米軍の同補給しょうには、議定書が禁止しているものの例としてあげている塩素が、写真でごらんのように山積されている。しかもその塩素ガスが流れ出て、同補給しょう周辺の住宅地に被害がでている」として、米軍に即時撤去を求めよと迫った。

46.5.26 琉球新報（夕刊）

自衛隊くるな

上陸に対処 立て看などで闘争強化

協水原

原水協は自衛隊の毒ガス撤去受け入れ反対闘争を強化するため、自衛隊の上陸に対処した立て看板二十枚、横断幕を作成した。

原水協は「自衛隊の毒ガス撤去受け入れ反対」のステッカー二十枚、横断幕を作成した。

原水協は自衛隊の毒ガス撤去受け入れ反対闘争を強化するため、自衛隊の上陸に対処した立て看板